

決算説明会

2019年3月期 第2四半期



2018年11月14日

 株式会社田中化学研究所

目次

1. 2019年3月期 第2四半期決算ハイライト
2. 2019年3月期 第2四半期決算トピックス
3. 製品別販売数量 前期との差異要因
4. 製品別販売Q毎推移
5. 主原料国際価格推移（\$/LBベース）
6. 主原料国際価格推移（円/kgベース）
7. 営業利益 前期との差異要因
8. 営業外収支および特別損益
9. 比較貸借対照表
10. キャッシュ・フロー計算書
11. 今後の車載用電池市場
12. 技術開発の方向性
13. 製品別販売数量推移予想
14. 2019年3月期 業績予想

付属資料

15. 業績を見る注意点
- ## 注意事項

1. 2019年3月期 第2四半期決算ハイライト

(単位:百万円)

	2017/9期	2018/9期	増減	増減率
売上高	8,989	16,888	+7,899	+87.9%
営業利益	373	219	△154	△41.3%
経常利益	337	234	△103	△30.6%
四半期純利益	309	185	△124	△40.1%
EPS(円)	12.21	7.32	△4.89	△40.1%
設備投資額	109	1,820	+1,710	+1,555.7%
減価償却費	240	262	+21	+8.8%
期末従業員数(人)	192	218	+26	+13.5%

2. 2019年3月期 第2四半期決算トピックス

●販売数量は前年同期比 +40.1% 受注は好調

- ・ リチウムイオン電池向け+54.8% (民生用途△12.2%、車載用途+576.0%)
- ・ ニッケル水素電池向け +4.4% (民生用途△17.5%、車載用途 +9.1%)

●主原料相場

- ・ コバルト相場は当第2四半期末にかけ急落
- ・ ニッケル相場は当第2四半期末にかけ下落

●コスト上昇要因

- ・ 主要ケミカル材料や電力料金の値上げによる大幅なコスト上昇

●設備投資

- ・ 設備投資金額計 1,820百万円
 - 内 原料溶解設備 18年10月より一部稼動 (第二・三期投資設備完成後 本格稼動予定)
 - ニッケル水素電池向け製品増産設備 (環境対応車用途)
 - リチウムイオン電池向け合理化実証ライン
 - 品質保証体制強化設備 等 含む
- ・ 第二期投資分 5,000百万円 (予定)
 - 内 リチウムイオン電池向け製品生産設備 (18年8月～着工 ⇒ 19年7月完成予定)
 - 排水処理等インフラ設備 (18年8月～着工 ⇒ 19年7月完成予定)

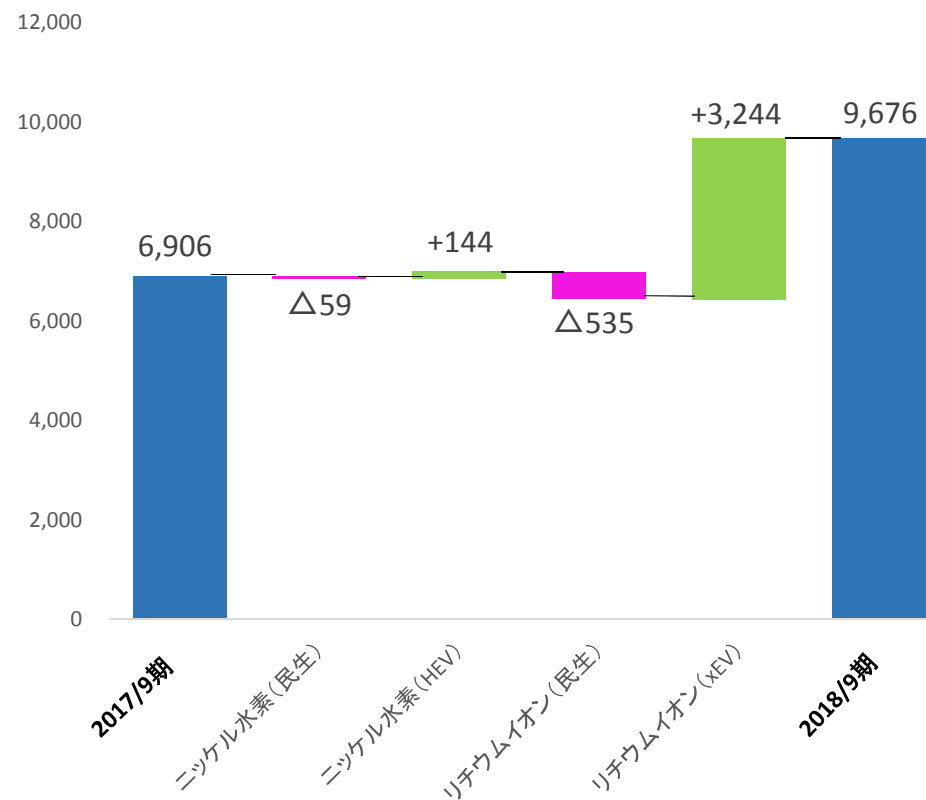
●コミットメントライン(総額2,000百万円)

- ・ 2017年3月31日付で契約締結したコミットメントラインでの資金調達は行なわず

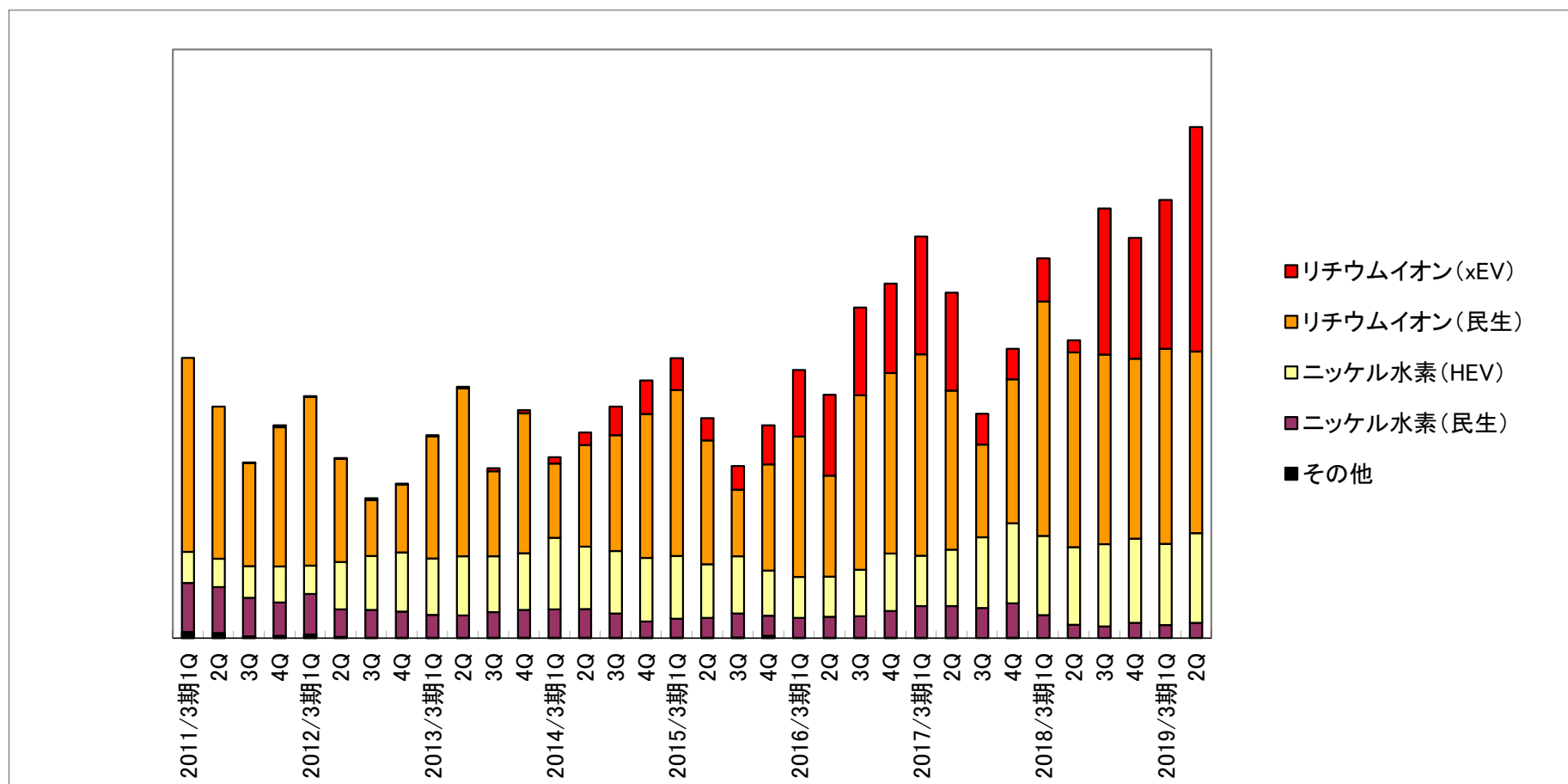
3. 製品別販売数量 前期との差異要因

(単位:t)

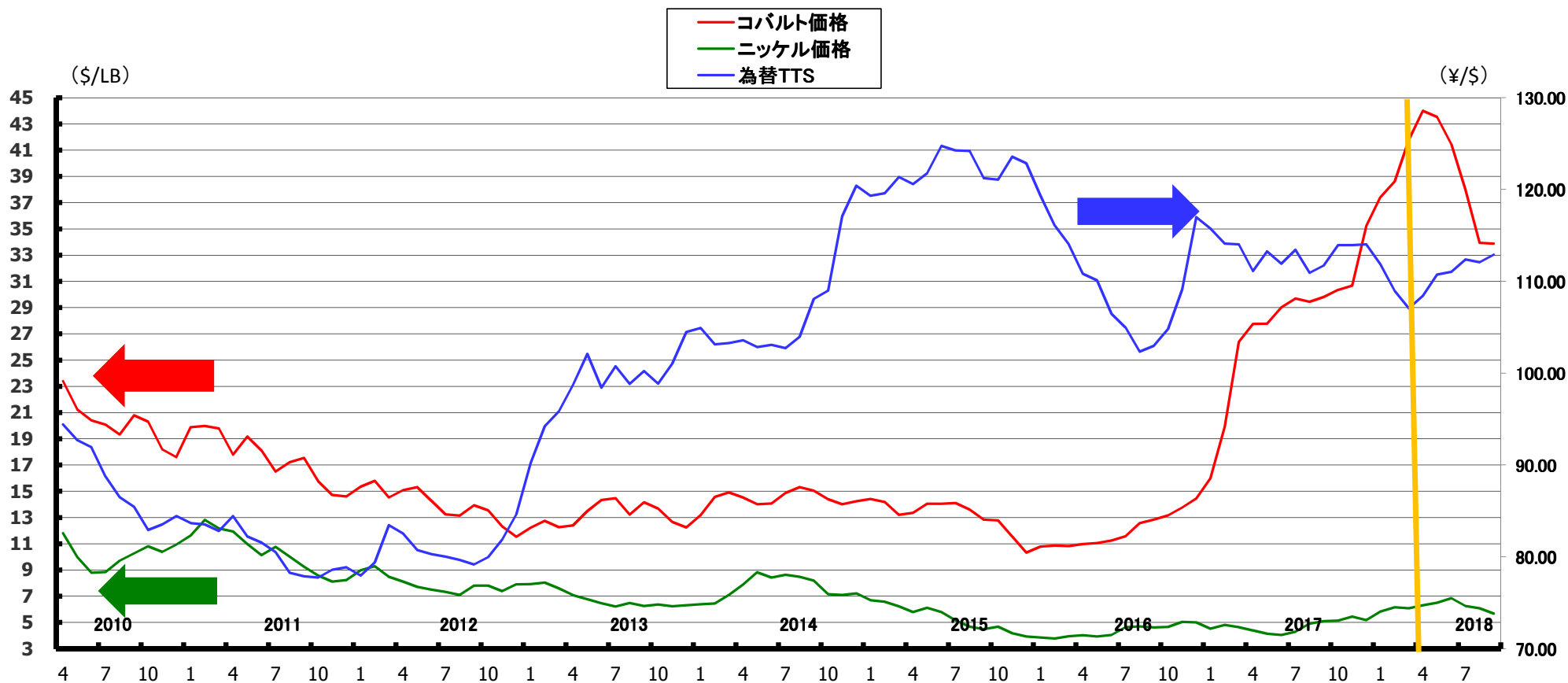
		2017/9期	2018/9期	増減	増減率
リチウムイオン	民生	4,377	3,841	△535	△12.2%
	xEV	563	3,807	+3,244	+576.0%
	計	4,940	7,648	+2,708	+54.8%
ニッケル水素	民生	337	278	△59	△17.5%
	HEV	1,599	1,744	+144	+9.1%
	計	1,936	2,022	+85	+4.4%
その他		28	4	△24	△83.3%
合計		6,906	9,676	+2,770	+40.1%



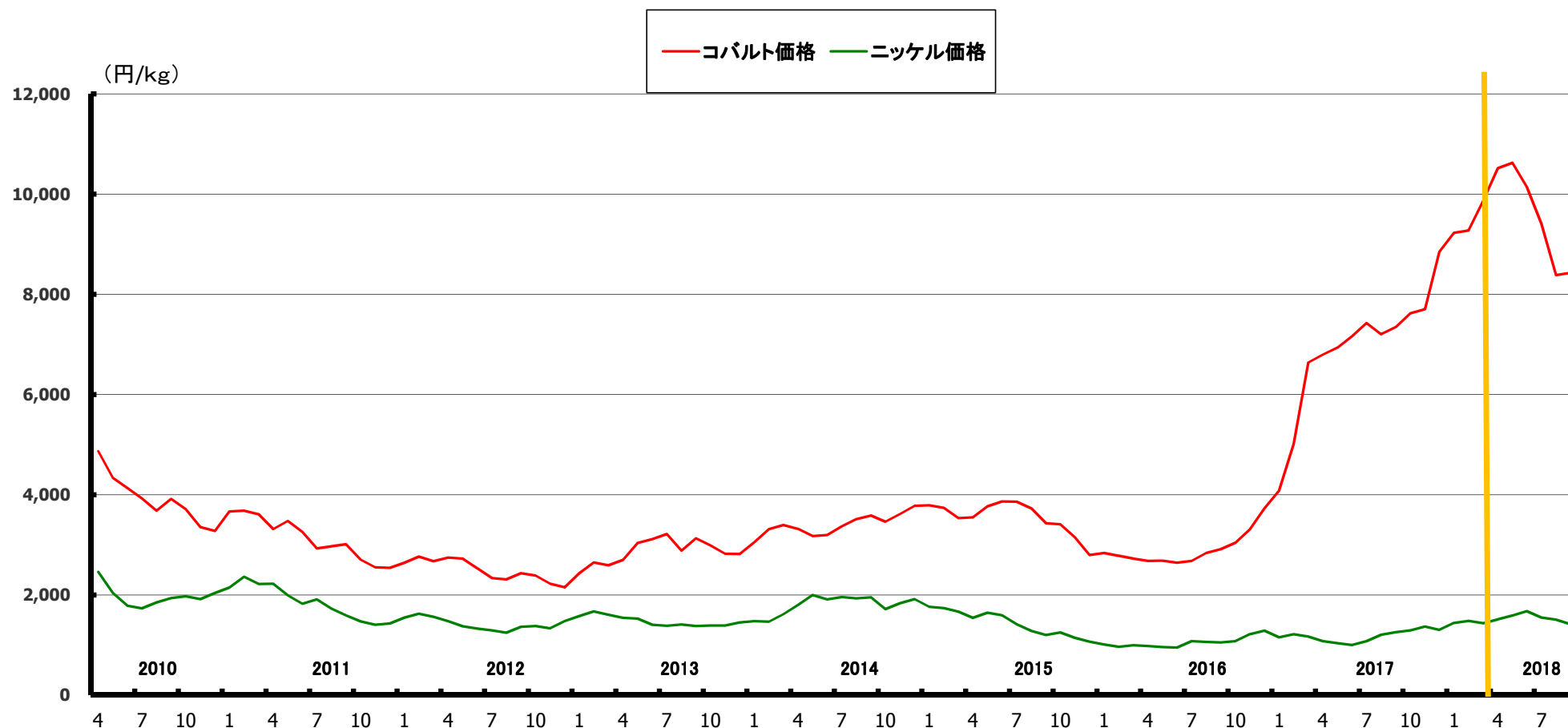
4. 製品別販売Q毎推移



5. 主原料国際価格推移 (\$/LBベース)

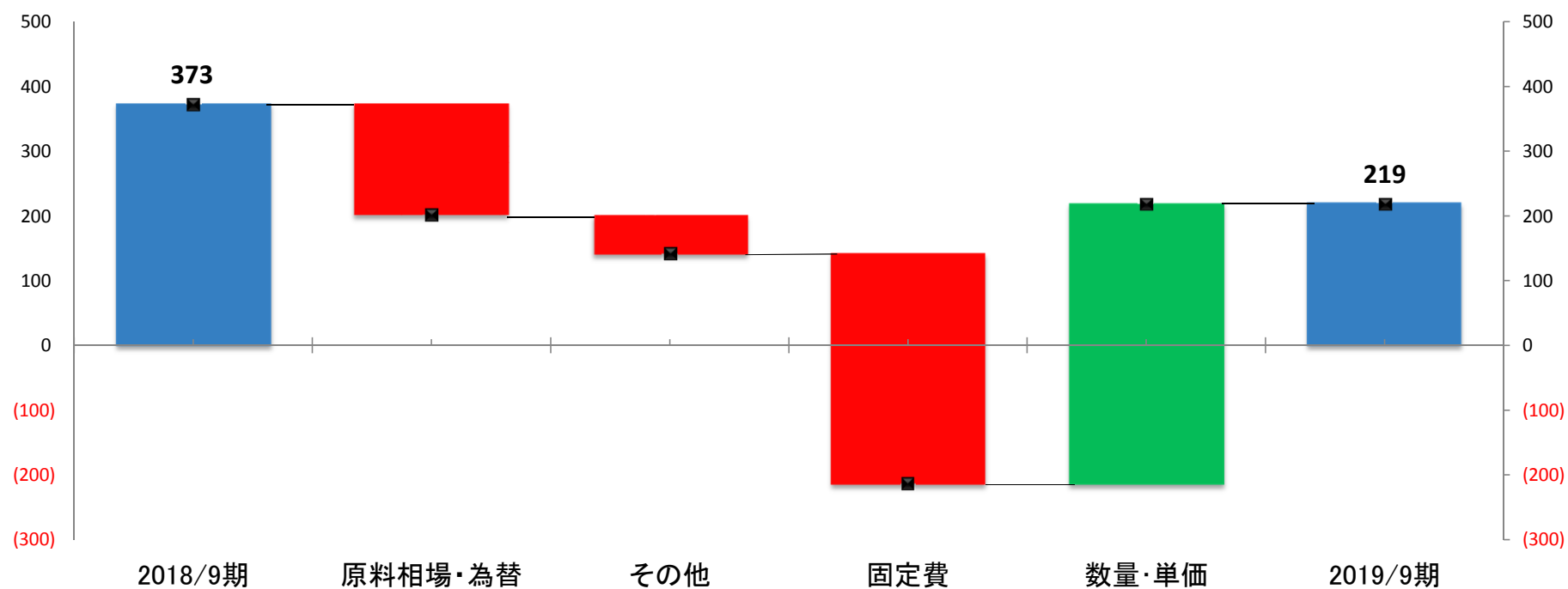


6. 主原料国際価格推移 (円/kgベース)



7. 営業利益 前期との差異要因

(百万円)



8. 営業外収支および特別損益

(単位:百万円)

	2017/9期	2018/9期	増減
営業外収支	△ 36	14	+50
金融収支	△ 10	△ 8	+1
為替差損益	△ 22	26	+49
その他	△ 2	△ 2	△ 0
経常利益	337	234	△ 103
特別損益	△ 0	0	+1
税引前四半期純利益	337	235	△ 102
法人税等	27	49	+21
四半期純利益	309	185	△ 124

9. 比較貸借対照表

(単位:百万円)

	2018/3期	2018/9期	増減
流動資産	11,364	12,555	+1,190
現預金	945	2,042	+1,097
売上債権	3,230	4,263	+1,032
棚卸資産	4,578	4,974	+396
グループ預け金	2,000	1,000	△1,000
その他	609	274	△335
固定資産	5,113	6,793	+1,680
有形固定資産	4,873	6,570	+1,696
機械装置他	2,471	2,310	△161
土地	1,125	1,125	—
建設仮勘定	1,276	3,134	+1,857
無形固定資産	10	8	△1
投資等	229	214	△15
資産合計	16,477	19,348	+2,871

	2018/3期	2018/9期	増減
流動負債	5,464	8,379	+2,915
仕入債務	3,184	5,433	+2,249
借入金	300	300	—
その他	1,980	2,646	+665
固定負債	2,573	2,341	△232
借入金	2,400	2,250	△150
その他	173	91	△82
負債合計	8,038	10,721	+2,682
資本金	5,779	5,779	—
資本剰余金	3,286	3,286	—
利益剰余金	△ 644	△ 458	+185
自己株式	△ 2	△ 2	△0
その他	19	22	+3
純資産計	8,438	8,626	+188
負債純資産合計	16,477	19,348	+2,871

自己資本比率	51.2%	44.6%	△6.6%
--------	-------	-------	-------

10. キャッシュ・フロー計算書

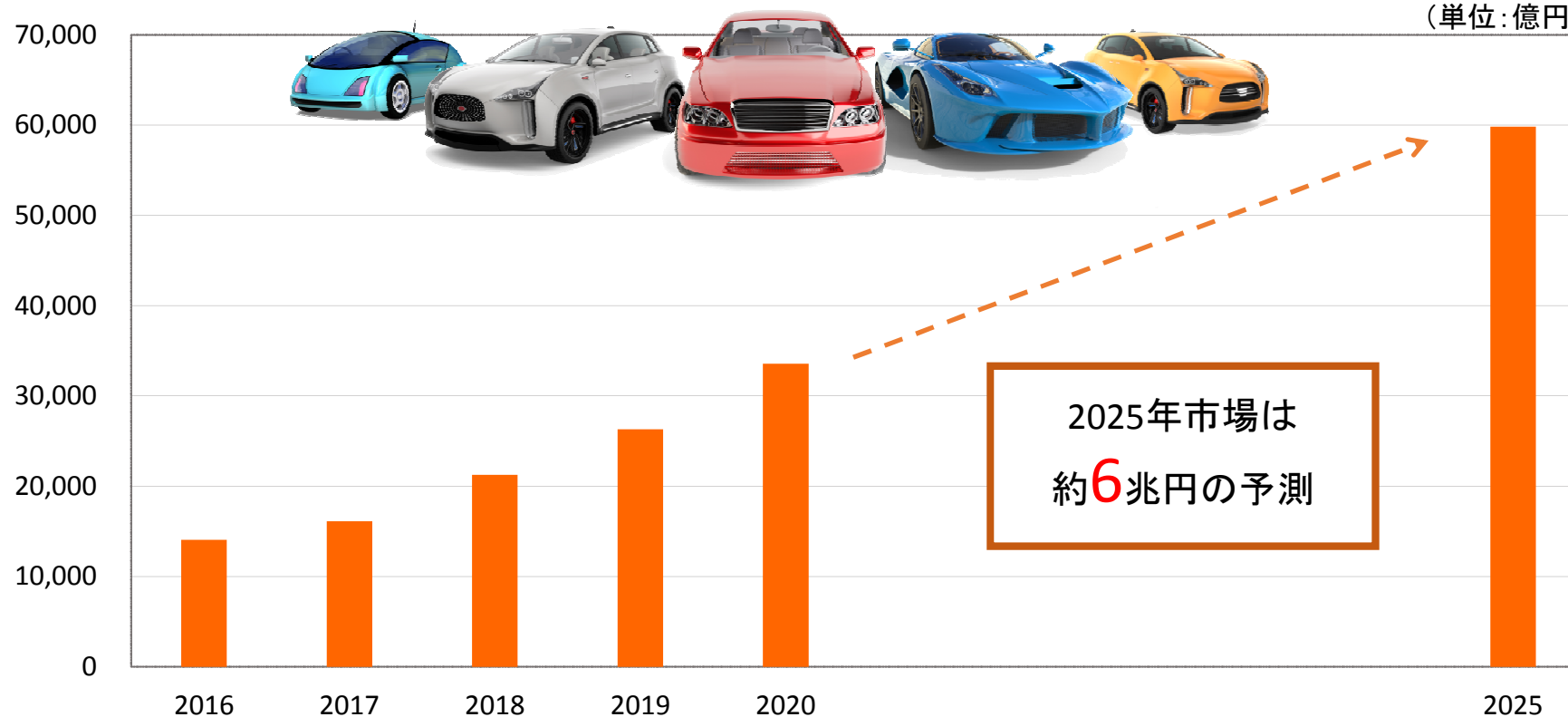
(単位:百万円)

	2017/9期	2018/9期	増減
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
税引前四半期純利益	337	235	△102
減価償却費	240	262	+21
運転資本による資金の増減	77	820	+743
その他	112	347	+234
営業活動によるキャッシュ・フロー	768	1,665	+897
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の取得	△ 91	△ 1,353	△1,261
その他	0	△ 0	△1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 91	△ 1,354	△1,263
フリー・キャッシュ・フロー	677	311	△366
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
長期借入金の返済による支出	△ 150	△ 150	—
その他	△ 55	△ 68	△13
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 205	△ 218	△13
現預金等換算差額	3	4	+1
現預金等増減額	475	97	△377
期末現預金残高	4,997	3,042	△1,954

1.1. 今後の車載用電池市場

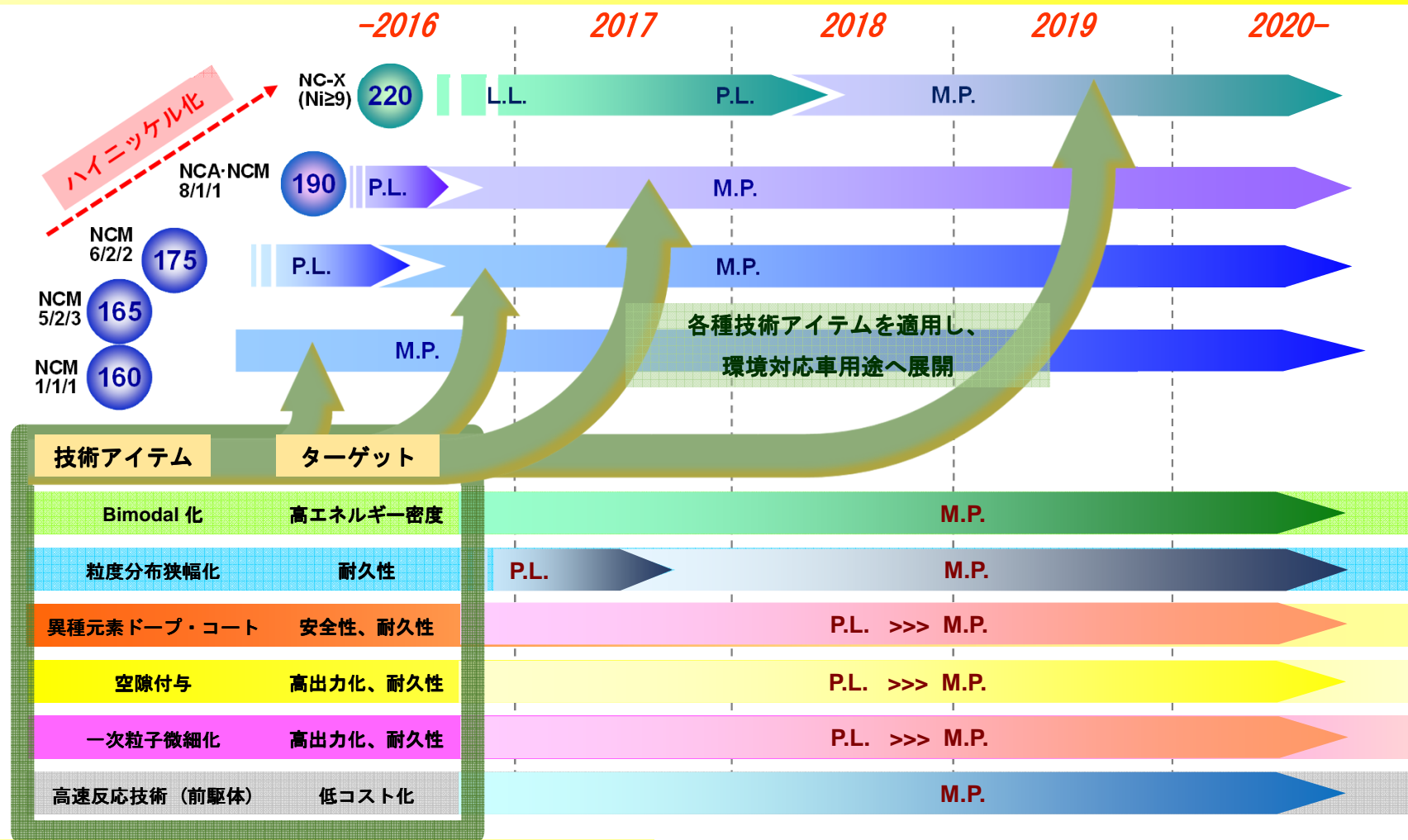
車載用リチウムイオン二次電池市場

(単位: 億円)



出所: 富士経済「エネルギー・大型二次電池・材料の将来展望 2017ーエネルギーデバイス編ー」

1 2. 技術開発の方向性

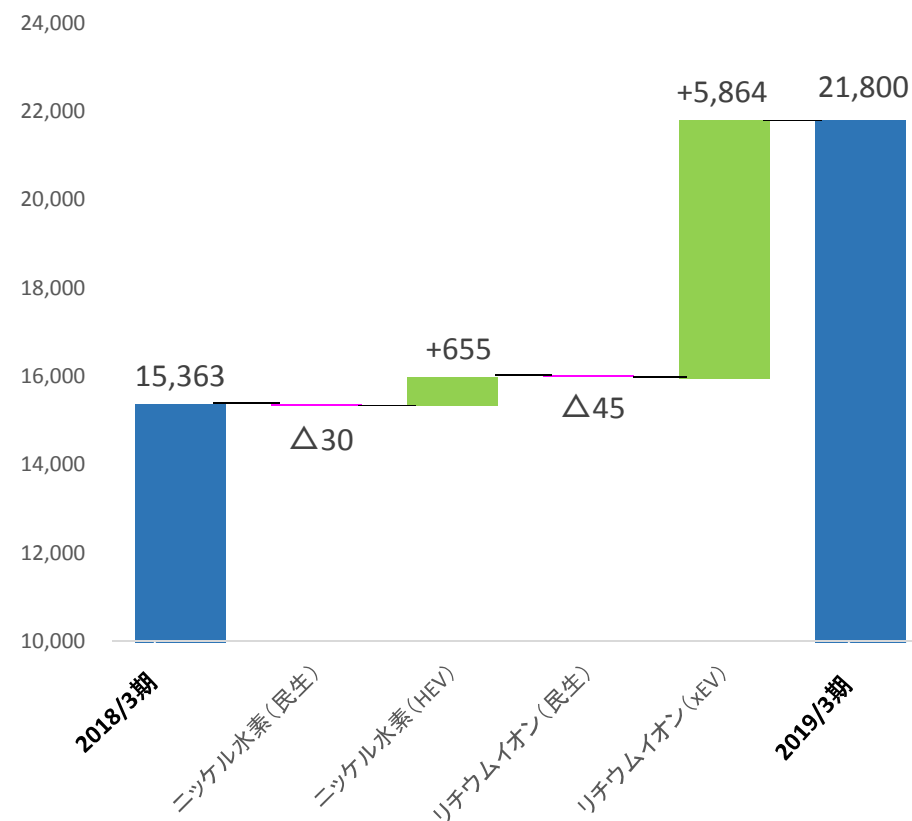


L.L.: Lab Level, P.L.: Pilot Level, M.P.: Mass Production

1.3. 製品別販売数量推移予想

(単位:t)

		2018/3期	2019/3期	増減	増減率
リチウムイオン	民生	8,145	8,100	△45	△0.6%
	xEV	3,285	9,150	+5,864	+178.5%
	計	11,430	17,250	+5,819	+50.9%
ニッケル水素	民生	580	550	△30	△5.2%
	HEV	3,294	3,950	+655	+19.9%
	計	3,875	4,500	+624	+16.1%
その他		57	50	△7	△13.2%
合計		15,363	21,800	+6,436	+41.9%



14. 2019年3月期 業績予想

(単位:百万円)

	2018/3期 実績	2019/3期 予想	増減	増減率
売上高	21,413	33,000	+11,586	+54.1%
営業利益	730	350	△380	△52.1%
経常利益	633	330	△303	△47.9%
当期純利益	681	300	△381	△56.0%
設備投資	1,459	7,000	+5,540	+379.7%
減価償却費	493	800	+306	+62.0%

付属資料

15. 業績を見る注意点

販売単価

$$\begin{aligned} \text{売上高} &= (\text{主原料国際価格} + \text{加工単価}) \times \text{販売数量} \\ &= (\text{主原料国際価格} \times \text{販売数量}) + (\text{加工単価} \times \text{販売数量}) \end{aligned}$$

//
利益に関係なく増減

//
利益の源泉
(加工収入)

1. 販売単価は、原則として主原料国際価格にスライドする。
従って、売上高は主原料国際価格の変動により利益に関係なく上下する。
2. 利益は「加工単価」と「販売数量」の積である加工収入にリンクしている。
3. 「加工単価」は製品の鮮度、技術的な革新性、工程の複雑さなどによる。

(注意事項)

本資料に掲載されている田中化学研究所の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しです。これらの情報は現在入手可能な情報から得られた情報にもとづき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等に重大な影響を与えうる重要な要因としては、田中化学研究所の事業領域をとりまく経済情勢、市場における田中化学研究所の製品に対する需要動向、競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場において田中化学研究所が引き続き顧客に受け入れられる製品を提供できる能力、為替レートの変動などがあります。但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。